



所在地/東京都町田市  
 学生数/10067人  
 学群/リベラルアーツ、芸術文化、ビジネスマネジメント、健康福祉、グローバル・コミュニケーション、航空・マネジメント  
 大学院/国際学、老年学、大学アドミニストレーション、経営学、言語教育、心理学  
 ▶THE世界大学ランキング2020 日本版/95位

# 桜美林大学

## CASE STUDY

# 入学前からエンゲージメントを築き 入学者の質と数を確保



入学部(アドミッションズ) オフィス部長 高原幸治

たかはらこうじ ●2008年桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科修了。大学卒業後、中学生や高校生を主な対象とした国際交流プログラム、海外留学を企画運営する会社に就職。2002年より学校法人桜美林学園に移り、入学部、国際交流、改組準備室、就職支援、学生支援などの部署を経て現職。

一時は7千人台に落ち込んだ志願者数を、約2.4万人にまで押し上げた桜美林大学。背景には、総合型選抜と連動した高大連携を軸に培った、高校からの信頼感がある。

### 自己申告書の質の低下に 大学の危機を感じた

本学は1989年以降、断続的な教育改革に取り組み、2007年に学群制の完成を見ました。しかし以降、志願者数はなだらかに下降し、2014年は約7千人にまで落ち込みます。志願者の質も変化しました。2015年、8年ぶりに入試の現場に復帰して驚いたのは、AO入試の自己申告書のレベルが大きく下がっていたこと。年内入試が定員の半分強を占める本学にとって、それは教育の危機だと感じました。そもそも学群制やリベラルアーツなど時代を先取りした教育が、募集につながっていないことも課題です。志願者の質と数を同時に上げる糸口になったのが、キャリア開発センターによる自己分析講座

です。これまでの学修や活動を整理し、将来の目標とつなげて考えることは高校生も大学生も同じと考え、「AO・推薦準備セミナー」を開発。初年度から約2000人が集まり、出願書類作成(アウトプット)の指導が課題だった高校から大変感謝されました。しかし、書けるようになっては中身が十分でないことに気づきました。

総合型選抜で求める学生は、高校時代に自分のコミュニケーションを越えて出会った仲間と何かに打ち込んだ経験を持つ人。そうした活動の場を提供すれば、将来的に自己申告書、ひいては志願者の質が上がるかと考え、翌年度から学びや体験の「中身」をインプットする「高校生応援プロジェクト」を始めました。2019年からは、これら2つの取り組みを「ディスカバ!」ブランドでくくっています。

### 入学までの各プロセスが 求める学生への準備活動

「ディスカバ!」のインプット支援ではSDGs、心理学、ミュージカル等、テーマごとに集まった高校生が個人やグループで、担当教員から出された課題に対して探究活動に取り組み、成果を発表してフィードバックを受けるしくみ

です。教員だけでなく在学生もスタッフとして活動を補助します。総合型選抜の書類では、学校の枠を超えた活動、体験を将来に生かすための省察、志望分野に関する読書経験などの記入欄を設けることで、大学が求める人材像を受験生へ間接的に伝えていきます。一方、「ディスカバ!」は直接的に伝えるしくみです。高校生が入試への準備を通じて大学生になっていくプロセスを「よく知る」ために行う高大連携の取り組みです。

「ディスカバ!」を通じ、高校との連携も深まっています。授業や部活動にプログラム提供する連携高校が現在7校。コロナ禍下で探究学習や課外活動に悩む高校からの相談は絶えません。こうした教育の方向性を同じくする高校とは、新たな高大連携校として緊密な関係を築きつつあります。

この春入学した「ディスカバ!」1期生83人から希望者を募り、入学までの期間「ディスカバ!」スタッフを務めてもらったところ、入学後の学びへの期待を大きく高める効果がありました。こうした効果も入学前教育でも引き起こせないかと、一部の学群で5教科の復習教材に代え、重きを置く思考力を高める入学前教育教材の活用も試行しています。

## 教育・入試・高大接続改革と募集状況の変遷

年度	~2007	2014	2015	2016	2017	2018	2019
教育改革	▶リベラルアーツ系とプロフェッショナル系の学群制への移行 ▶メジャー・マイナー制、基盤教育の導入?			▶グローバル・コミュニケーション学群設置		▶芸術文化学群、健康福祉学群収容定員増	▶ビジネスマネジメント学群 ▶新宿キャンパス移転
入試改革	▶1996年自分推薦制度導入 ▶1999年AO入試導入	▶学長直轄の入試広報戦略委員会発足 ▶全学学生募集広報PJ立ち上げ	▶一般入試に、基礎学力検査型試験、センターplus方式導入	▶センターplus日程追加	▶一般入試日程の大幅変更 ▶3科目の2科目判定セット導入 ▶検定料割引制度導入	▶4科目型入試、英語資格・検定試験の活用開始 ▶AO・推薦入試改編実施	▶一般入試学類化対応検討 ▶AO・推薦入試改編実施検討
高大接続		▶高校生育成型プログラムの調査、検討、プログラム開発	▶AO・推薦準備セミナー開始	▶高校生応援プロジェクト開始	▶AO・推薦準備セミナーの学校別・地方展開導入	▶「ディスカバ!」への名称変更とブランド化	
募集状況(総志願者数)	10380人	7047人	7465人	8273人	10269人	14089人	22724人

## 注目! オンライン化で拡大、進化する「ディスカバ!」プログラム

2017年度に参加者184人で始まり、2019年度は40プログラムに延べ1700人が参加するまでに拡大した「ディスカバ!」。申込者の44%が志望度の高い高3生、残りが探究学習に関心の高い高1、2生。女子が7割を占め、進学実績のない高校からの参加者もいる。コロナ禍により一斉休校が始まった3月から、がぜん高校生や高校からの注目が高まった。大学は休校中に探究活動ができない高校生のためにオンライン開催を決定。「#臨時休校あなたは何する」というハッシュタグと共にSNSで告知した結果、海外在住者を含め1364人が参加。「全国100人の高校生が協力し合い、リモートで合唱の動画を作成」「高校生が大学生相手にSDGsのワークショップを実施」といった、オンラインならではの成果が生まれた。ディスカバ!事務局でコーディネーターを務める今村亮氏は、「連携校7校のうち4校は、コロナ禍の下での実施を通じて加わったもので、先生方からの信頼の高まりを感じた。今後も本学の高大連携の軸にしたい」と語る。

ディスカバ! オンラインの専用サイト。  
 ①動画で視聴⇒②申し込み⇒③課題提出⇒④表彰式の4ステップで進む

オンライン表彰式では教員やスタッフの学生からのフィードバックを受ける



SDGsのワークショップの様子

\*1 現在は「総合・推薦型入試準備セミナー」  
 \*2 学校を飛び出して「1cm先の未来体験」へ。未来の可能性を発見(=discover)する高校生を応援